

- 今回は1つ決めると次のものにつながる事が多く、例えば、ボランティアセンターの認知度が低いから空き家をボランティアセンターにする、そうすると空き家がなくなるという話につながり、このような意見がすごく面白いと思いました。
- 地域福祉室ではボランティアセンターの知らなかったことも良くまとめられて、楽しかったけど少し大変（まとめること）なこともあった。地図にも覚えている限りしっかり記せたので良かったです。
- 茅ヶ崎市の自然のことが良く分かった。鶴嶺小のブロッコリーの木の本名や、私が今まで知らなかったことを今日学べました。さらに自然に対する意欲が高まったと思います。
- 移動式ホースが多くあっても使い方が分からなかったら意味がないので、使用方法を確認するイベントや集会が必要かなと思いました。



■第3回ワークショップのまとめ（東京大学生産技術研究所 加藤先生）



大人と中学生が対等な関係で、それぞれ異なる視点からの意見を交わすことができていて、新しいアイデアが生まれてくる予感を感じました。また、鶴嶺東地区は多様な資源（市街地、豊かな自然環境や神社、人の活動…）に恵まれていることから、今後に向けて色々な可能性が感じられます。

各研究室では、発表で話された内容以外にも、たくさんのアイデアや工夫が話し合われていました。次回までに、自分の研究室以外ではどのような話が出ていたのか、情報交換をしておいてください。また、今回のワークショップでは、自助・共助・公助の「共助」の視点で議論をしていますが、それぞれの家庭では、たとえば消火器が設置されているかどうかなど、「自助」についてもあらためてチェックしてみてください。

■ワークショップの今後の予定 まだ参加されていない方のご参加も、お待ちしております！

回数	日付	時間	概要
第1回 (終了)	平成29年 10月29日	9:00～ 12:00 (180分)	防災“も”まちづくりについて学び、考えよう ・ 加藤先生からの講演／鶴嶺東地区の市街地状況／地域の活動 ・ 鶴嶺東地区防災“も”まちづくり研究所の設立式
第2回 (終了)	平成29年 12月2日	9:00～ 12:30 (210分)	防災“も”まちづくりの視点で鶴嶺東地区を見てみよう！ ・ 体験学習 ・ 防災“も”まち歩き／まち歩きマップをつくろう
第3回 (終了)	平成30年 1月28日	9:00～ 12:30 (210分)	「防災“も”まちづくり」のアクションプログラムを考えよう！ ・ 地区の良いところ・課題と地域資源を考える ・ アクションプログラム／キックオフイベントの検討
第4回	平成30年 2月24日	9:00～ 12:30 (210分)	防災“も”まちづくり「キックオフイベント」を考えよう！ ・ キックオフイベントの企画案の作成 ・ アクションプログラムに沿った活動の継続方法の検討

鶴嶺東地区「防災“も”まちづくりワークショップ」ニュース Vol.3



研究室ごとに、防災“も”まちづくりのアイデアを考えました！

茅ヶ崎市では、東京大学生産技術研究所の加藤孝明准教授のご協力のもと、平成21年度から「防災都市づくりワークショップ」（昨年度から「防災“も”まちづくりワークショップ」に改称）を実施し、地域のみなさんと一緒に災害に強い都市づくりを進めております。

今年度は、鶴嶺東地区のみなさんと一緒に、全4回のワークショップを実施しています。ワークショップでは、鶴嶺中学校の生徒の方々に多く参加していただき、鶴嶺東地区のまちづくりについて考えます。

3回目の今回は、前回のまち歩きで撮影した写真やメモをもとに「防災“も”まち歩きマップ」を作成、その後、防災“も”まちづくりのアイデアについて、話し合いました。

～第3回 鶴嶺東地区「防災“も”まちづくりワークショップ」で行ったこと～

＜＜はじめに＞＞

- ・ あいさつ
- ・ 前回までの振り返り

＜＜グループワーク①＞＞

- ・ まち歩きマップをつくろう！
- ・ まち歩きマップの発表

＜＜グループワーク②＞＞

- ・ 防災“も”まちづくりのアイデアを考えよう！
- ・ 防災“も”まちづくりのアイデアの発表

＜＜講評＞＞

- ・ 加藤先生からのコメント

＜＜閉会＞＞

- ・ 次回予告

■前回までの振り返り

第1回 加藤先生の基調講演「地域から進める防災“も”まちづくり」

「防災“も”まちづくり」をうまく進めるためのキーワードや、防災の基本となる考え方についてお話しいただきました。地域で防災の取組を進めていくにあたっては「防災“だけ”」ではなく、その他の地域課題（福祉、景観…等）も含めて、総合的に考えていく「防災“も”」という視点が大切です。

第2回 体験学習（ブロック塀の倒壊・火災体験）とまち歩き

体験学習では、地震によって倒壊したブロック塀の重さや、火災のふく射熱、延焼の状況などを体験してもらいました。また、水消火器を使った消火活動の体験や消防による消火活動の見学をしました。

まち歩きでは、4つの研究室に分かれて、テーマに沿ったミッションをこなしたり、まちの資源や課題をチェックしながら歩きました。

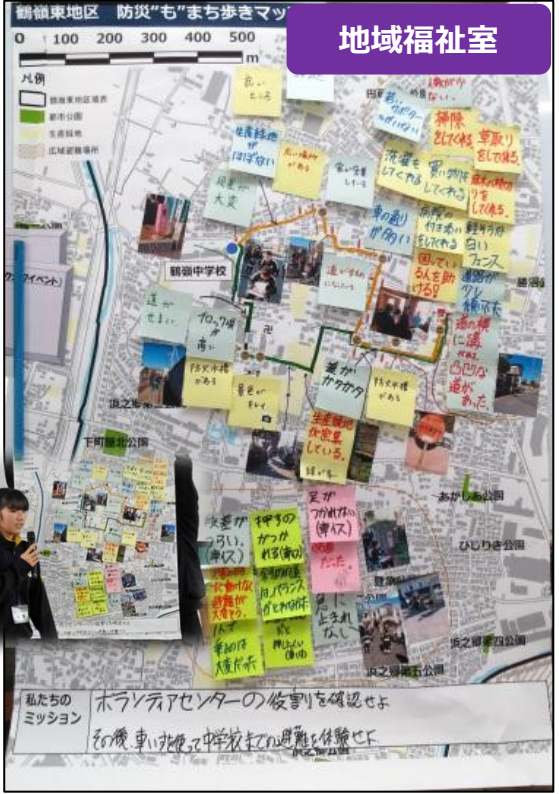


■ 研究員が作成した「防災”も”まち歩きマップ」

4つの研究室がそれぞれ作成した「防災”も”まち歩きマップ」です。歩いたルートと見つけた地域資源や課題が、その場所の写真と一緒に書かれています。

「防災”も”まち歩きマップ」の作成手順

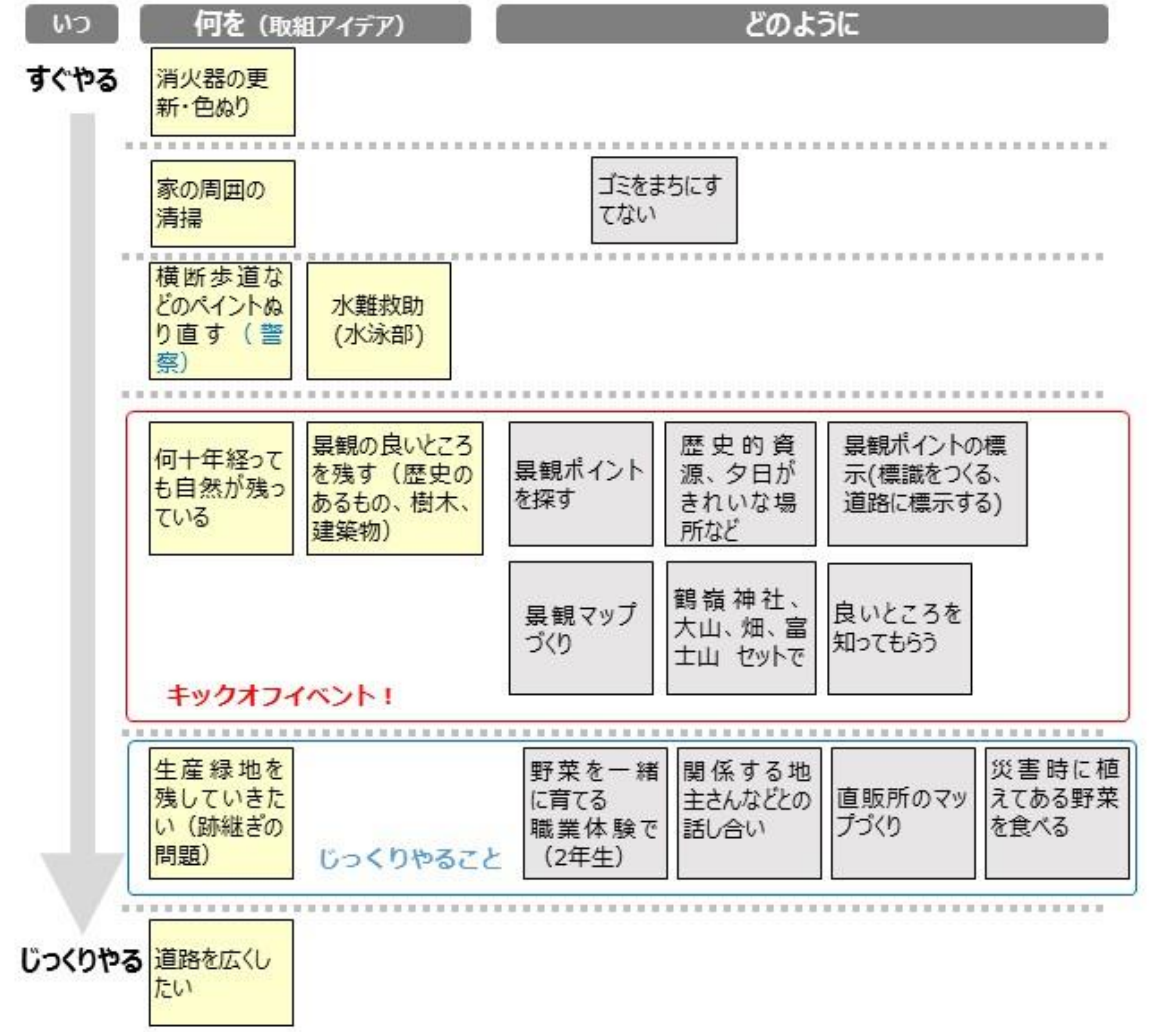
- ① まち歩きで歩いたルートを太線で書く。
- ② 見つけた地域資源を、写真シールや付箋を使って記録。
- ③ 「研究室ミッション」の内容と、体験して学んだことを書き込む。
- ④ それ以外にも、感じたことや気が付いたことがあれば、どんどん書き込む。



景観みどり室

テーマ： 何十年たっても自然を残そう！

良いところ	課題	鶴嶺東地区の地域資源
- 鶴嶺の森と大山の景観が素晴らしい - 歴史のある参道 - 鶴嶺八幡宮の大銀杏 県の天然記念物 - 鶴嶺神社の参道の松並木は大切に守りたい - 鶴嶺小学校のブロッコリーの木 - 多くの畑がある - とれたての野菜を販売 - 自然豊か - 消火器がたくさんあり、地域の人々も安心して暮らせる	- 生産緑地は災害の際に利用できるか？ - ブロック塀が危険 - 道が狭く、避難の際に危険 - 鶴嶺通りの舗道は、ところどころ狭く危険 - 狭い道がたくさんあった - お年を召された消火器 - 消火器の設置基準、管理方法が課題 - 鶴嶺神社前の横参道がデコボコ道になっていて、転倒の危険がある - 鶴嶺八幡宮の管理体制	- 鶴嶺神社 - 大銀杏 - 松並木 - 自然 - 直売所の野菜 - 消火器 - 防犯対策 防犯灯ほか - 高い建築物がなく、日当たりが良い、空が広い、眺めが良い - 道路、まちがきれい（地域・学校で美化活動を実施）



まちづくり推進室

テーマ：人口ぞうかであわせな町を作ろう！

良いところ

防災

- 自治会の取組（防災訓練、環境整備、感震ブレイカー、消火器、移動式ホース格納箱、防犯カメラ、周知など）
- 移動式ホースがあるため、火災の時に役立つ
- 初期消火の意識がある

木

- 地域全体に木が多く、燃えにくい
- 樹木の保全をしている

課題

道（交通安全）

- 道が狭い
- ホームタウン・参道では、道を渡る人が多い
- カーブが多く、見通しが悪い
- 歩道が少ない
- ブロック塀が高い（見通し、倒れる）

防災

- 防災対策が全住民に広がらない
- 移動式ホースの使い方
- 移動式ホースの増設

担い手

- 地域の高齢化
- 若者世代の協力、つながり
- 自治会での取り組みに中学生などが少ない
- 平日お昼にお父さん、お母さんが地域にいない
- 住民参加の防災訓練

参道

- 鳥居の所の木を短くする（松だと燃えやすい）
- 防火樹木の整備
- 防犯灯の照度を上げる

鶴嶺東地区の地域資源

- 生産緑地
- 広い敷地や公園や駐車場
- 広い農地 延焼防止
- 防火水槽 ・移動式ホース
- 感震ブレイカー
- 防災倉庫 ・消火器
- つなみシール
- 広報用防災無線
- 防犯カメラ
- テニスコート
- TBSのお祭り
- テント
- 自動販売機（ハマミナにある）
- えぼしまろ
- 中学生（立派な防災戦力）

いつ

何を（取組アイデア）

どのように

すぐやる

全住民に防災対策を広める

自助、共助の方策を具体的に全員が理解する

住民への自助行動の防災マニュアルの全戸配布

えぼしまろを使ってお見合いを開く（高齢化）

若い人、子どもを増やす

お見合い防災訓練

中学校の結婚していない先生方を中心に月1回開催

自治会の人たちに企画してもらう

お祭りは、テニスコートなどで開催

つりばし効果を狙う

中学校に災害発生30分以内の行動訓練を

お祭りの記念・賞品として、防災グッズを全員に配布

しっかりしたレインコート、お菓子、ライトが必要

移動式ホースの使用方を学べる集まりを地区ごとに開く

地震・大雨・火災などの災害全てに対応できるように

自治会、自主防災組織が一体となって課題を共有する

近所の顔見知り関係と助け合いの心を持ち合う

元気な人、助けの欲しい人を明確に

注意看板ステッカー

防災のポスターやステッカーを小学生たちに作ってもらう

道をキレイに整備する

横断歩道をつくる

自転車専用道路やマナーをつくる

署名集め（危険性について多くの人が声を挙げる）

キックオフイベント！

じっくりやること

鶴嶺東地区 防災”も”まち歩きマップ

～まちを見て、地域の課題や良い点を知ろう～

凡例

- 鶴嶺東地区境界
- 都市公園
- 生産緑地
- 広域避難場所

一般のお宅に設置された移動式ホース格納箱

- 住宅の庭の中に設置されていました。
- より使いやすい場所に置けないだろうかという意見も出ました。

自動販売機も地震で倒れる危険性

- 器具で固定されているが、地震の際には、人が歩いている道に向かって倒れる可能性も。

昔は用水路だった「2トン車以上通行禁止」の道

- 「2トン」は最大積載量のこと。（消防車自体は約6トン。）
- 今は通行できる道だが、昔は田んぼの用水路であった。2トン以上の車が通ると道自体が崩れてしまう危険性もある。

鶴嶺中学校の防災倉庫と受水槽

- 下水道が破裂して、水が使えなくなった時に、中学校に設置されている受水槽が利用できる。
- 防災倉庫はもっと数を増やして活用すべき。

生産緑地は避難先の候補

- ふだんは農地として利用されている生産緑地。土地が広いので、災害時には避難先として考えられる。

「地震・火災の広域避難場所」の掲示板

- 以前は人通りが少ない別の場所に設置されていたが、より多くの人に見てもらえるようにこの場所に移された。
- 実際に見てみると、基本的な地図の見方（方角や記号）や災害時の避難先について、わかっていなかった部分も多く、みんなで確認した。

（全体）住宅地の防災上の課題

- このエリアは全体的に、道が入り組んでいてわかりづらい
- 家同士の距離が近く、延焼の危険性がある。

（全体）災害時に避難に使える広い場所

- 生産緑地の他にも、青少年広場や駐車場といった広さがある場所は、災害時の避難先になり得る。

住宅地の道幅の狭い

- 新しく建て替えなどした家の前は、法律の関係上、まわりの古い家と比べて道が広がっている場合がある。

防災対策室

私たちのミッション

円蔵第一公園へ行き、防災設備の使い方をマスターせよ

下町屋西公園

★ミッションの成果！

移動式ホースを実際に使って消火活動を体験しました。操作方法、置き場所など、もっと使いやすくなると良いのでは！

- 体験してみて、思った以上に水の反動が強くて驚きました。
- 詳しく説明を受けないと、使い方が分からない。
- 慌てている時でも使えるように簡単な説明書があると良い。
- もっと使いやすい格納箱の置き場所はないだろうか？

浜之郷公園

鶴嶺東地区 防災“も”まち歩きマップ ～まちを見て、地域の課題や良い点を知ろう～

地域福祉室

私たちの
ミッション

ボランティアセンターの役割を確認せよ
その後、車いすを使って中学校までの避難を体験せよ

凡例

- 鶴嶺東地区境界
- 都市公園
- 生産緑地
- 広域避難場所

第三公園

車いすでの移動について

- 車いすの種類によって、自走できるものとできないもの、乗り心地の良いものとあまり良くないもの等、様々あった
- 普段あまり気づかないようななだらかな坂や道路の凹凸でも、進みにくい車とすれ違う時に、危険を感じる（狭い道は特に怖い）



車いす目線では

- ブロック塀を見上げると、いつも以上に高く感じる

健常者の方も

- 倒壊すると避難経路として通れなくなる
- 人が下敷きになる恐れがある

全体的に

- 消火栓や防火水槽などの防災設備が多くあった
- 軽いフェンスが多かった（災害時に倒れても被害が少ない）
- 少し傾いている道や、凹凸のある道、狭い道、道沿いに溝があるところがあった
- 高齢者が多い

住宅の塀について

- ブロック塀でなく、生け垣を設置している住宅もある
- 写真のように、笹で生け垣を作っている家や、竹で塀を作っている家もあるが、竹は火事になると燃えやすいため、植物の種類によっては生け垣でも危険

所々に古い住宅

- 倒壊すると、道をふさいでしまう・人が下敷きになる恐れがある
- 広い場所であっても、古い住宅が隣にあると、避難する場所としては適さないかもしれない

消火栓の周りのライン

- 消火栓の周りのラインが消えかけていた（近々、消防の方がオレンジ色のラインを引直ししてくださるそうです）

矢畑第一公園

★ミッションの成果！

ボランティアセンターでお話をうかがって、ボランティアセンターのことをもっと多くの人に知ってもらいたいと思いました

- 困っている人を助けてくれる（やさしい人が多い！）
- サポーターの人数が少ない
- 若いサポーターが少ない（約8割が60代～70代）

車椅子は乗ってみると快適ですが、1人で乗ったり、押す側になると、とても大変でした

- 段差が辛い
- 押すのが疲れる
- 斜めに傾いている道ではバランスが取れなかった
- 急に止まれない
- 1人で乗るのは大変だった
- 災害の時、すぐには動けず、避難が大変だと感じた

浜之郷公園

梅田公園

ひじりき公園

地域福祉室

テーマ： 皆が住みやすい町

良いところ

防災

- 広い場所がある
- 消火栓・防火水槽が多くある！
- 軽いフェンスが多い
- 道がまっすぐで、車椅子が押しやすい

文化・自然

- 景色がキレイ
- 生産緑地が多い（生産緑地が密集している所がある）

ボランティアセンター

- ボランティアセンターで困っている人を助けてくれる（やさしい人が多い！）

課題

住宅地

- ブロック塀が高い
- 家が密集している
- 車の通りが多い
- 道路が少し傾いているところがある
- 道が狭い
- 凸凹な道がある
- 道沿いに溝がある

生産緑地

- 生産緑地に傾りがある（全然ない所もある）

ボランティアセンター

- ボランティアセンターのことをもっと多くの人に知ってもらいたい
- サポーターの人数が少ない
- 若いサポーターが少ない（約8割が60代～70代）

地域全体

- 高齢者が多い

車椅子での生活

- 車椅子だと、ちょっとした傾斜や段差がづらい

鶴嶺東地区の地域資源

- 消火栓
- 消火器
- 移動式ホース格納箱
- 防火水槽
- 坂が少ない
- 景色が良い
- 緑が多い
- ボランティアセンター

いつ

すぐやる

何を（取組アイデア）

どのように

ボランティアセンターを広める

ボランティアセンターのチラシを配る

ボランティアセンターを目立たせる

ボランティアセンター主催の祭をつくる

車椅子に乗る体験

地域行事など人が集まる所で、ボランティアセンターを呼びかける

キックオフイベント！

避難場所を把握する

ハザードマップを設置する

もう少し見やすくかわいく

車椅子で通れる道、通れない道をマップに載せる

防災設備のことを知る

防災設備の講習会などを行う

防災の祭の時に防災にちなんだ屋台を立てる！！

ボランティアセンターのサポーターを増やす

ボランティアセンターの体験

本番で行動できるように、地域の危険さを知る

火災等の災害の体験をしてみる

車椅子の人でも安全に、速く避難できるようにする

広い道では歩行者の道を確保する

車椅子専用の道路を作る

道の段差を坂にしてもらう

じっくりやる

空き家対策をする

ボランティアセンターを増やす

空き家をボランティアセンターにする！

じっくりやること

防災対策室

テーマ： こどもから大人までの防災まちづくり

良いところ

避難所になる

- ・生産緑地
- ・円蔵第一公園
- ・青少年広場
- ・学校（防災倉庫、受水槽がある）

その他

- ・消火器が多い
- ・市役所などの施設が近い
- ・公園で一年中イベントが開催
- ・防災訓練を年に1回以上行っている

課題

道、街並み

- ・道が入り組んでいて分かりづらい（全体）
- ・道が狭い
- ・車両の重量制限がある（道路）
- ・災害時ブロック塀が危ない
- ・家同士が近く、延焼の危険性がある

移動式ホース格納箱

- ・慌てている時でも使えるようにしたい
- ・使い方が分かりにくい
- ・知らない人が多い
- ・箱にチェーンで鍵がかかっていて使えない

中学生と大人のつながり

- ・中学生と話し合いたい
- ・中学生にもっと防災訓練に参加してもらいたい
- ・家族から中学生に伝える

設備等

- ・自治会所有の防災倉庫の確認、活用
- ・もっと防災倉庫、受水槽を増やした方がよい
- ・灯りが少ない
- ・避難所の掲示板が少ない

鶴嶺東地区の地域資源

- ・広い場所
- ・防災訓練
- ・青少年広場
- ・生産緑地
- ・鶴嶺中学校
- ・防災倉庫
- ・受水槽
- ・公園
- ・移動式ホース格納箱
- ・避難場所掲示板
- ・消火器

いつ

何を（取組アイデア）

どのように

すぐやる

移動式ホース格納箱マニュアルを作る

絵を描いて一目で分かるようにする

自分たちで、絵や写真を使って分かりやすく描く

操作方法を箇条書き①・・・②・・・

使い方をDVDにして、地域に貸し出す

格納箱の中に入れておく。

キックオフイベント！

防災訓練に中学生を呼ぶ（行事の中に取り入れる）

イベントを実施（大人と子供）

夏祭りたなばた花火大会

学校に声をかける

イベントの時にゲーム感覚で！

防災訓練に面白い要素を入れる

ホースでの当て／ホースを引っ張る競争

じっくりやること

中学生から大人へ防災の講習会

まちについて中学生から大人にヒントを与える

大人から中学生にヒントを与える

まちの良いところ、悪いところ、悪いところ！

古い消火器を新しくする！

移動式ホース格納箱の数を増やす

市役所に伝える

土地の問題などがある（設置場所を探す）

じっくりやる

鶴嶺東地区 防災“も”まち歩きマップ

～まちを見て、地域の課題や良い点を知ろう～

まちづくり推進室

私たちのミッション

まちの特徴（ハード＆ソフト）を探れ！（ホームタウンとTBS分譲地の違い）

★ミッションの成果！

まちの特徴「ホームタウン」

- ・各戸で地震対策に取り組んでいる。
- ・テニスコートや広場もあり、いざというときは周りから避難を受け入れる。
- ・避難者のためにテントなども用意している。
- ・横断歩道が少ないため、道を渡ってしまう人が多い。

まちの特徴「TBS分譲地」

- ・移動式ホース格納箱をゴミステーションや民家に設置して、誰でも使えるようにしている。
- ・消火設備配置図をTBS分譲地全体で共有している。
- ・最近では、新しい家も建ち、土地が細分化されている。
- ・防犯強化地区に指定されています。

凡例

- 鶴嶺東地区境界
- 都市公園
- 生産緑地
- 広域避難場所

第三公園

鶴嶺中学校

中学校から一番近い街頭消火器。今まで気づいていなかった。

両側に高いブロック塀。もし、今、地震があったら・・・

住宅街の中の道

- ・歩行者のための路側帯は色が塗ってあるが、ゴミ置き場があり通れない
- ・住宅街の中を通り抜ける車が多くて危険

逃げ込めるまち

- ・公園やテニスコートなどのオープンスペースは周りの住民も逃げ込める
- ・テントも用意している
- ・下町屋北公園は、夏祭りなどで多くの人が集まる

第二公園

公園

ホームタウン 茅ヶ崎

TBS分譲地

矢畑第一公園

登家公園

矢畑第二公園

広い道に出るところに貼ってある小学生が作成した一時停止の標示

ひじりき公園

公園には、洪水時に使用できる土のうを置いている。知らない人が多い。

梅田公園

浜之郷公園

木があると安全？危険？

- ・木があるから延焼しにくい
- ・参道にある松の木は燃えにくいのか（種類によって違うのではない）
- ・管理されていないと地震で倒れてくるのではない
- ・（ホームタウンでは、短く切って管理しているようだ）
- ・木の根っこで道が陥れてしまうと危険

